

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月4日

【評価実施概要】

事業所番号	3271800397		
法人名	社会福祉法人 吾郷会		
事業所名	グループホーム マホロバの里		
所在地 (電話番号)	島根県邑智郡美郷町長藤745-5 (電話)0855-82-251		
評価機関名	NPO しまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白湯本町43番地 松江市民活動センター内		
訪問調査日	平成19年8月2日(木)	評価結果確定日	平成19年9月27日

【情報提供票より】(H19年7月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11 年09 月01 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	10 人	常勤 7 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 3	

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	木造平屋 造り	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	3万 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(0 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(0 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 780 円			

(4) 利用者の概要(7 月10 日現在)

利用者人数	8 名	男性	1名	女性	7名
要介護1		名	要介護2		2名
要介護3		5名	要介護4		1名
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均	88歳	最低	74歳	最高 96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	秦クリニック、波多野診療所、三次中央病院、大田市立病院、ふくま歯科
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ツバメの巣が見える、中庭を取り囲む廊下にはソファや鏡台が置かれ癒しの場となっている。自己評価や外部評価を法人理念「顧客満足の追求」のひとつとして受け止め、職員に徹底している。ISO取得により内部監査、業務手順やケアマニュアル、など書類が良く整備されている。人材育成に力が入られ法人理念や事業所目標を掲示し職員に周知している。入居者ひとりひとりの性格や生活歴を把握し、ケア計画に活かしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>生活空間づくりで接道する国道沿いにホームの看板を2ヶ所設置され解りやすくなっている。入居者の権利を分りやすく明文化されている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価、外部評価の結果を2ヶ月に1回の運営推進会議に報告し「顧客満足の追及」に反映されている。身体拘束防止に関する研修等に参加し、運営規程にも明記されている。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回、第4土曜日に出席者からの意見交換や外部評価等の報告、事業所内での改善した事項について報告されている。この会議を契機に地域との交流が進むことを期待したい。会議については記録し、公表されている。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月、家族へ生活状況や行事参加のお知らせを郵送したり、訪問時にも報告されている。家族の意見や苦情等は第三者委員会や公的機関の受け付け機関を明示されている。実際は苦情としてはあがっていない。意見に関してはその都度、話をしたり、運営推進会議にも報告されている。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運動会を企画されていて地域との密着に結びつけたり、敬老会に参加を呼びかけたりされている。</p>

2. 評価結果

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所介護理念「自主性を尊重した生活支援」をもとにサービス提供されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念のもとに職場目標を設定されていて、個人目標やケアプランに反映し取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは人家から離れており地域住民との交流が少ないが、茶のみ話にボランティアがおとずれる取り組みもある。	○	気軽に立ち寄ってもらうよう運営推進会議に働きかけたり、運動会の企画をして付き合いを深めていく計画があるのでその実現を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員に周知徹底されている。昨年度の改善項目に対しても、権利の明文化とホームの看板設置は改善出来ている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回、第4土曜日に設定されていて話し合いや公表が行われサービス向上に活かされている。自治会長、民生委員、地域潮クラブ会長等がメンバーである。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日々、必要に応じて市町村と積極的に連携を取られている。また、併設施設が町主催の調整会議に出席しているので情報提供を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、生活状況、健康状態や行事参加、金銭管理の報告が行われている。職員の異動等については、つど報告する事にはなっていないが、訪問時等にお知らせは行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書内に明記されていて、第三者委員設置し、周知徹底されている。職場会議や運営推進会議等報告、改善されている。法人内のサービス向上委員会(週1回)にも反映されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	社会福祉法人の中で異動があり、問題なく対応出来ている。去年から今年、職員異動はない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課によるフィードバック面接を行ったり、法人内外の研修に積極的に参加させている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	併設の施設との交流は行われているが、同業者との交流の機会は町の調整会議など多くは無い。	○	質の向上をはかる取り組みの一環として、管理者や職員が同業者との交流の機会を持てるよう検討していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	暫定ケアプランを通して本人の状況、状態に応じながらサービスを展開されている。体験入居のような慣らし期間はないが、慣れないからとのトラブルは今までない。	○	利用者が安心して納得してサービスの開始を受けられるよう心がけていただきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族の面会時や電話連絡によりお互い、情報交換しながら対応し、関係づくりが行われている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式により、施設長をはじめ主任中心に生活歴を重視し、家族の意向も取り入れてケアに結びつけられている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事前に本人、家族、主治医等の意見を聞き、暫定ケアプランを提示しカンファレンスにて確認されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回のモニタリング、見直しをされている。	○	これまでは3ヶ月に1回の見直しで良かったが、今後は1ヶ月に1回はモニタリングを行い、必要に応じて見直しを図っていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出の希望がある場合は出来るだけ対応されている。入院中の空きベッド利用(ショートステイ)ができるように研修を受ける予定がある。	○	現在は満床であるが、今後は空部屋を利用してのショートステイ利用の具体化を検討してほしい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力機関との連携、情報交換を密に行われている。定期的な往診体制も取られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居されている方の平均年齢があがってきているが、現在の所、終末期を迎えられた方はいないが、体制は作られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いに関しては文章で交わされている。職員にも徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ほとんどの方が食堂兼リビングで過ごされたり、廊下に置かれているソファに腰掛け中庭を眺めて会話を楽しんだり穏やかな雰囲気がある。見守りながら一人ひとりのペースを大切にされているのが感じられる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設施設の厨房で作られているので利用者と職員と一緒に準備することはされていない。ハード面で改善は難しいと考えられている。	○	女性利用者が多い中で「普通の生活の実現」「出来る事を奪わないケア」の実践において食事支援を生活支援の柱として位置づけたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望により毎日入浴出来る体制はとられているが、実際は毎日入浴される利用者はおられない。	○	入浴が毎日の楽しみになるような支援について検討頂きたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	テレビ、習字、食器洗い、洗濯物たたみ、園芸など一人ひとりの役割、趣味が活かされている。鏡台や化粧品も置かれており化粧やマニキュアなども楽しまれている。中庭にツバメの雛が孵っているのを、ソファに二人並んで眺めておられた。	○	近くに行き来できる店や家がないので、できること、やりたいことから楽しみごと、気晴らしを見つけてあげていただきたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月2回は外出日が計画されているが、それ以外でも希望に応じて対応されている。ホームの東側に広場があり季節を感じられる環境もあつたり、近くの東屋にリハビリを兼ねて外出もされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関には鍵をかけない、居室は夜間も通じて鍵をかけないケアは行なわれている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアル作成、避難訓練は毎年計画的に地域の方にも協力を得て行なわれている。災害時の非常食も常備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとり一人の状態におうじて把握されている。食後はもちろん午前、午後にもティータイムがとられている。食事量、水分量のチェックをし、夜勤者にも把握できるようにされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下にソファがさりげなく置かれている。食堂兼リビングでは畳を敷き、いつでも横になれるようになっている。玄関先には花や植物を植えてあつたりと工夫はされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者によっては馴染みのものが多く置かれていたり自由に持ち込まれるようにされている。しかし殺風景で生活感のない部屋もあった。	○	馴染みのものに囲まれた生活を支援していただきたい。